

愛知の留学生

—留学生への総合的な支援の推進—

愛知県地域振興部国際課主事 長谷川 理恵

HASEGAWA Rie

1. はじめに

愛知県の外国人登録者数は、201,268人（2011年末現在速報値。愛知県調べ。）で、県内総人口7,422,898人（愛知県統計課「あいちの人口（2012年1月1日現在。推計人口）」による。）に占める外国人登録者数の割合は2.71%である。

また、愛知県における外国人留学生は6,706人（2011年5月1日現在。日本学生支援機構調べ。）であり、これは、東京、福岡、大阪に続いて第4位である。2011年度は、東日本大震災の影響などにより全国同様、愛知県内の留学生数も減少したが、10年前に比べて73%増加している（表1）。国籍別では、中国が圧倒的に多く、韓国、ベトナムと続く（表2）。

表1 愛知県内留学生の推移（各年5月1日現在。日本学生支援機構調べ。）

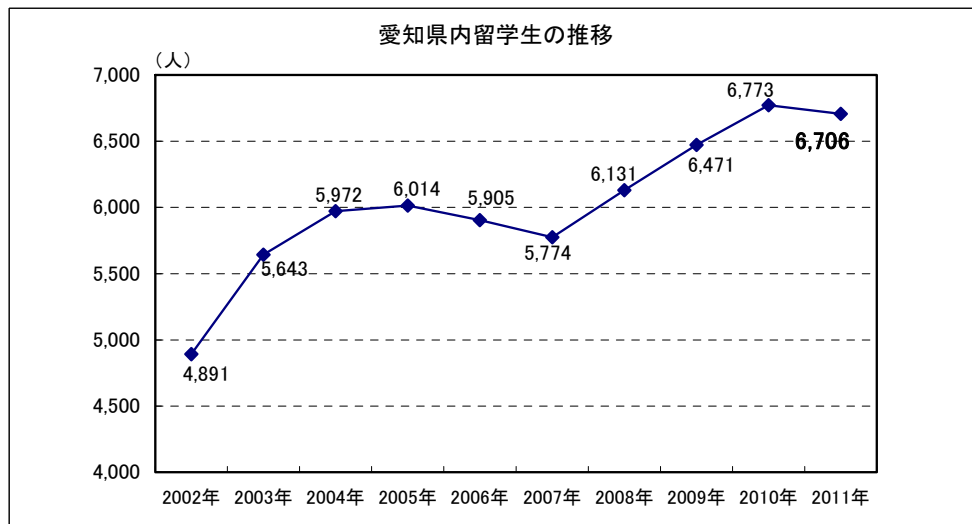


表2 県内留学生の主な出身国（2011年5月1日現在。愛知県留学生交流推進協議会調べ。）

1	中国	4,050人
2	韓国	406人
3	ベトナム	182人
4	台湾	159人
5	マレーシア	131人
6	インドネシア	110人
7	アメリカ	89人
8	ネパール	76人
9	モンゴル	70人
10	タイ	65人

愛知県は伝統的にもものづくりが盛んな地域であって、県内の製造品出荷額等は 38 兆 2,108 億円（従業者 4 名以上の事業所。2010 年工業統計産業編「概要版」）と全国の約 13% を占め、34 年連続日本一である。また、海外 26 都市と結び、国際線だけで年間 4 百数十万人が利用する中部国際空港を擁するとともに、国際拠点港湾である名古屋港など県内の貿易拠点を經由した輸出入額が 2010 年には全国の約 13% を占めるなど、ヒト・モノの両面でグローバルな活動が盛んな地域である。

経済・産業のグローバル化の進展に伴い、製造業を中心に企業の海外進出が進んでおり、1,988 社の県内企業が海外に展開し、3,217 拠点を設けている（2011 年末現在。愛知県調べ。）。特に中国や東南アジアなどアジア地域への進出が多く、海外拠点の 6 割以上がアジア地域となっている。

県内企業の海外進出、事業のグローバル化には現地の文化・言語に理解のある人材は不可欠となっている。このため、留学生は、専門的な知識・技術を学んでいるだけでなく、日本語と外国語の能力のほか両国の生活・文化等も理解していることから、愛知県と出身国の発展に寄与する高度人材として注目が集まっている。

そこで、愛知県では、知事マニフェストの「元気な経済・産業・地域づくり」の実現に向け、国際競争力強化のために「優秀な留学生の獲得」、「留学生の国内就職の支援や帰国後のフォローシステムの検討」に取り組んでいる。

今回は、愛知県が実施している留学生支援施策を、（１）「愛知への留学」（受入支援）（２）「愛知での生活」（生活支援）（３）「愛知への定着」（就職支援）（４）「愛知との絆」（帰国後のフォロー）の４段階に分けて紹介する。

2. 愛知県の留学生支援

（１）来日前「愛知への留学」（受入支援）

愛知県では、日本への留学を考えている外国人に留学先として選ばれるよう、愛知県への留学の魅力として、「愛知留学生受入事業」を実施している。これは 1990 年度から実施している奨学金制度であり、ASEAN 加盟国から県内大学院に入学する留学生に対し、渡航費・生活費・学費を補助する事業である。受入期間は 2 年 6 カ月（研究生 6 カ月、大学院修士 2 年）とし、将来にわたって ASEAN 加盟国と愛知県の発展・交流の担い手を育成することを目的としている。2012 年 5 月現在 6 人（インドネシア 3 名、ベトナム 2 名、カンボジア 1 名）が県内大学院に在籍しており、10 月には 3 名を新規招致する予定である。2011 年度から、招致留学生のうち 1 名は、特にベトナムとの連携を深めるためのベトナム中核人材枠として選抜することとしている。地方自治体が、渡航費・生活費・学費を補助する渡日前採用の奨学金制度を設けているのは珍しい。

新規愛知留学生の来日後には日常生活のフォローはもちろん、定期的なミーティングの開催、県内視察会などを実施し、愛知県についての理解を深めるとともに、留学生同士が交流を深める機会も設けている。これまでに 63 名の留学生がこの奨学金を受け、卒業後は母国と愛知県の発展に貢献している。

また、「愛知留学生受入事業」の他に、外国青年招致事業（海外移住者子弟留学生）も実施している。これは、ブラジルまたはアルゼンチン在住の本県出身移住者の子弟

を本県に招いて就学させることにより、本県を中心としたわが国の文化的伝統を広く紹介し、現地日系人社会の発展に資するとともに、日本とブラジルまたはアルゼンチンとの交流を一層促進させようとするものである。受入期間は1年とし、渡航費・生活費・学費を補助している。

(2)「愛知での生活」(生活支援)

・国際留学生会館運営事業

県内の大学・大学院に在籍する留学生の生活支援として、公益財団法人名古屋国際センターの実施する国際留学生会館運営事業に対して名古屋市と協調し、補助を行っている。これにより、低廉な宿舍の提供や研修・相談事業の実施等、在学中に安心して勉学に専念できる就学環境の整備を図っている。

ア 宿泊事業

国際留学生会館(名古屋市港区)は、県内大学・大学院に在籍する留学生を対象にしているもので、単身室が80室、夫婦室が10室あり、最大100名が入居可能である。

イ 研修事業

日本での就職を希望する留学生を対象とした就職活動に役立つビジネスマナー講座や、留学生が日本の伝統文化に触れられるように華道教室、茶道教室を開催している。また、留学生を含めた外国人一般を対象とした日本の伝統文化への理解を深めるための十二単装束の着付け体験なども実施している。

ウ 情報提供・相談事業

留学生を対象に、アルバイトや奨学金に関する情報提供、学業及び生活上の各種相談を行っている。また、2012年度から、会館居住者専用のポータルサイトを開設し、各種情報を円滑かつ迅速に提供できるよう取り組んでいる。

エ 交流事業

留学生を講師とする外国語講座や留学生の出身国の文化・外国事情や観光スポット等を紹介する講座の開催及び区役所や諸団体の行事への参加を通して、留学生と市民との交流による相互理解の促進を図っている。

・あいち医療通訳システム

日本で生活する外国人が日本の医療機関に行く場合、通訳のいる医療機関が少ないなど、言葉の壁に不安を感じている。そこで、数多くの外国人が生活する愛知県では、県医師会などの医療関係団体や大学と連携して、通訳派遣や電話通訳を提供する「あいち医療通訳システム」の本格運用を、今年度から開始した(表3)。

表3 あいち医療通訳システム

通訳派遣	大学と連携して養成した医療通訳者の派遣
電話通訳	24時間365日対応の電話通訳
文書翻訳	転院先病院への紹介状等の翻訳
その他	外国人対応マニュアル(多言語問診票等)の提供

- ・対応言語は、英語、中国語、ポルトガル語、スペイン語
(電話通訳・マニュアルは、ハングルとタガログ語も対応)
- ・通訳派遣と文書翻訳は、2012年度秋からタガログ語にも対応

(3)「愛知での定着」(就職支援)

留学生が卒業後も県内に定着し、高度人材として活躍できるよう、「留学生地域定着促進事業」により、様々な面から支援している。

・留学生サポート事業

日本での就職を希望する留学生を対象に開催される留学生のための合同企業説明会(愛知労働局主催)の運営に協力している。

・留学生就職セミナー事業

留学生に県内企業への就職の魅力を伝えるため、留学生を対象に就職セミナーを実施している。2011年度は、「愛知で就職したい留学生のためのモノづくり企業魅力発見ツアー」を実施した。県内留学生31名が参加し、電動工具メーカーの株式会社マキタの工場見学、人事担当者からの説明や若手社員との交流会などを通して県内企業で働く魅力を学んだ。ものづくりの現場や日本人社員・外国人社員が活躍する様子を見学し、直接話を聞くことができる貴重な機会となり、留学生からも好評を得た。

また、留学生を採用する側への働きかけとして、企業を対象に留学生採用の魅力や留意点を伝えるための留学生採用セミナーを実施している。2011年度は、県内中小企業の留学生採用促進のため、愛知県中小企業団体中央会の情報連絡員を対象にセミナーを開催した。

2012年度については、現在、留学生に愛知県内企業、特に優れた中小企業の魅力を知ってもらい、就職活動の参考となるようなセミナーの開催を企画している。

・留学生インターンシップ事業

県内留学生が日本での就職を考えるにあたり、日本の企業風土を理解し、実際の就職活動の参考にできるよう、大学の夏期休暇中にインターンシップを実施している。インターンシップ実施前には、留学生が自信を持ってインターンシップに臨めるよう、事前セミナーとしてビジネスマナー・ビジネス日本語の講座を開催している。2011年度は、49名の留学生から参加申し込みがあり、32名のマッチングが成立した。

課題は参加申し込み留学生の専攻と希望する企業、受入企業の業種と希望する留学生のマッチングが不成立で、一部の留学生がインターンシップを体験できない結果になることである。今後は留学生・企業の募集・マッチングには一層の配慮が必要となる。また、インターンシップは、あくまで就職のための選考に直結しない職業体験であることから、留学生には希望業界・業種以外のインターンシップにも積極的な参加を促したい。受入企業の中には、大学での専攻や出身地域を不問とする受入企業も少なくない。また、留学生からは有名企業への申し込みが偏りがちだが、中小企業でのインターンシップでは実際の仕事に近い体験が多くできることもあり、中小企業でのインターンシップを体験した留学生からは多くの作業や仕事を任されることで、意識が変わったとの意見もある。

・留学生就職活動支援プログラム開発事業(2011年度)

留学生の県内企業での就職の促進を図るため、「県内留生意向調査(2009年度)」及び「県内留学生就職活動実態調査(2010年度)」結果を踏まえた留学生の就職活動に関する実態調査(ヒアリング調査等)を実施した。さらに留学生に県内企業への就職活動に必要な実践的な知識・ノウハウを体系的に指導するためのプログラムの開発

及び同プログラムに基づく就活支援のモデル講座も開催した。モデル講座では先輩留学生から就職体験を聞く機会もあり、これから就職活動に望む留学生からは、大いに参考になったとの感想が多かった。

・留学生ビジネス日本語講座開催事業（2011年度）

先項の2009年度、2010年度調査の結果、留学生の日本語能力が就職活動、特に採用に係る大きなポイントになっていることがわかったことから、就職活動にまつわるビジネス日本語講座をモデル的に開催した。敬語表現や丁寧な言い回しなどを、ビジネスマナーや就職に関する基礎知識を織り交ぜながら指導した。

（４）「愛知との絆」（帰国後のフォロー）

留学生が母国へ帰国後も愛知県との結びつきを持ち、両地域の発展に貢献できるように、帰国留学生連携推進事業を行っている。これは、2010年度に設立された「ベトナム帰国愛知留学生ネットワーク（バロネット）」の活動の強化、充実に向けた多様な人材交流を促進することを目的としている。

「バロネット」は、愛知県内の大学・大学院を卒業したベトナム人の元留学生が、帰国後も愛知とベトナムとの架け橋となって様々な人材交流活動を行うことにより、双方の発展を目指すことを目的に設立された団体である。現在、70名余の会員で運営されており、構成員は公務員、企業役員、大学教授など多様である。

2011年度からは、留学生受入活用推進事業として、ベトナムにおいて、愛知の魅力発信、本県からの進出企業の支援、県内大学等への留学生受入拡大につながる活動・調査等を「バロネット」に事業委託して実施している。2011年10月には、日本学生支援機構主催の日本留学フェアに出展参加する県内大学のサポートも行っている。また、県内においては、現役ベトナム出身留学生とベトナムへの進出企業との交流会の開催などを行っている。

2012年4月に大村愛知県知事がベトナムへ渡航した際には、ホーチミン市でバロネット役員・会員、経済・行政関係機関、現地大学生・教員との交流会が開催され、活発な交流が行われた。



交流会での知事のあいさつ



愛知県・ベトナム留学生交流会の開催

今後は、愛知県がベトナムの優秀な学生に留学先として選ばれるよう、バロネットの活動体制を整え、強化する必要がある。

※なお、留学生支援ポータルサイトでは、上記の各事業を日本語・英語・中国語で紹介している。

(URL: <http://www.pref.aichi.jp/kokusai/ryugakusei-portal/index.html>)

3. これからの愛知県の取組

急速に変化する国際情勢に対応するためには、世界と闘える愛知として、地域の特徴を生かした機動的で実効性のある施策を実施する必要がある。そこで、2012年度には、学識者、経済界、国際関係機関等の有識者による「あいち国際戦略会議」を設置して県としての国際戦略を検討することとしている。会議では「国際人材」・「産業グローバル」・「魅力 AICHI」の3部会を設置し、「国際人材部会」においては、留学生をはじめとする優秀な海外人材を呼び込むための施策の検討を行う。

留学生支援に係る今後の取組については、現行の各事業を引き続き実施するとともに、より多くの外国人学生が愛知県に留学して有意義な留学生活を送り、卒業後は愛知県と出身国との架け橋となって活躍できるよう産・学・行政が連携した取組を進めていくこととしている。